

ANNUAL REPORT 2023

ANNUAL REPORT 2023



公益財団法人
東近江三方よし基金

〒527-0012
滋賀県東近江市八日市本町 9-19
TEL 080-2541-9990
MAIL 3poyoshi.kikin@gmail.com



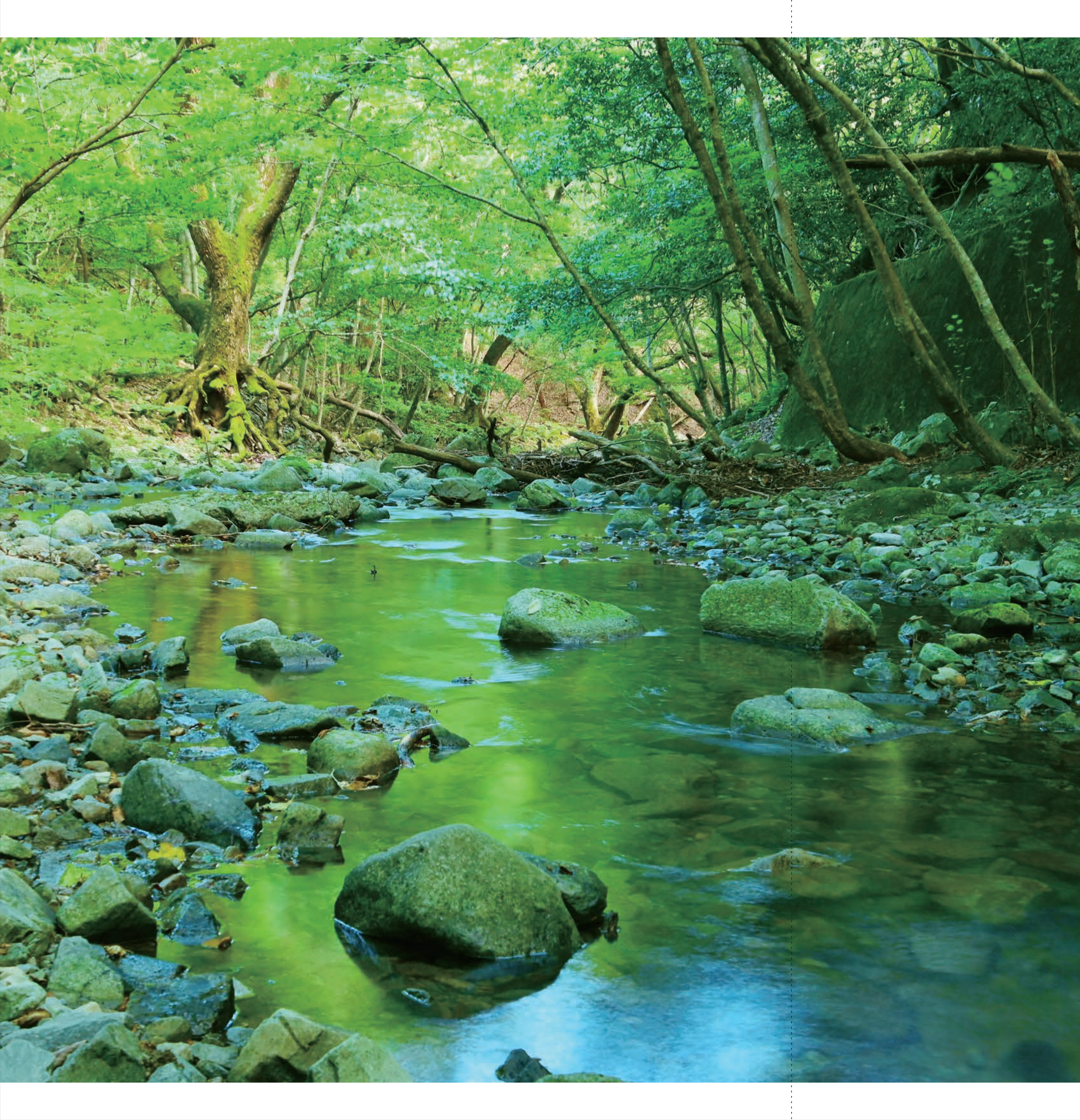
3poyoshi.com

発行
公益財団法人 東近江三方よし基金
制作 NPO法人 ナイマゼ
デザイン 高橋 潤己 (QUATTRO design)



東近江三方よし基金
2023 年度年次報告書

 東近江三方よし基金



ANNUAL REPORT 2023

東近江三方よし基金
2023 年度年次報告書

CONTENTS

東近江三方よし基金について	03
事業報告 01	
東近江の森と人をつなぐ あかね基金フォーラム 2023	05
事業報告 02	
公益活動助成事業	07
事業報告 03	
社会的インパクト投資促進事業	08
事業報告 04	
休眠預金活用事業 報告会	10
東近江三方よし基金への寄付	11
応援メッセージ	12
2023 年度決算報告	13



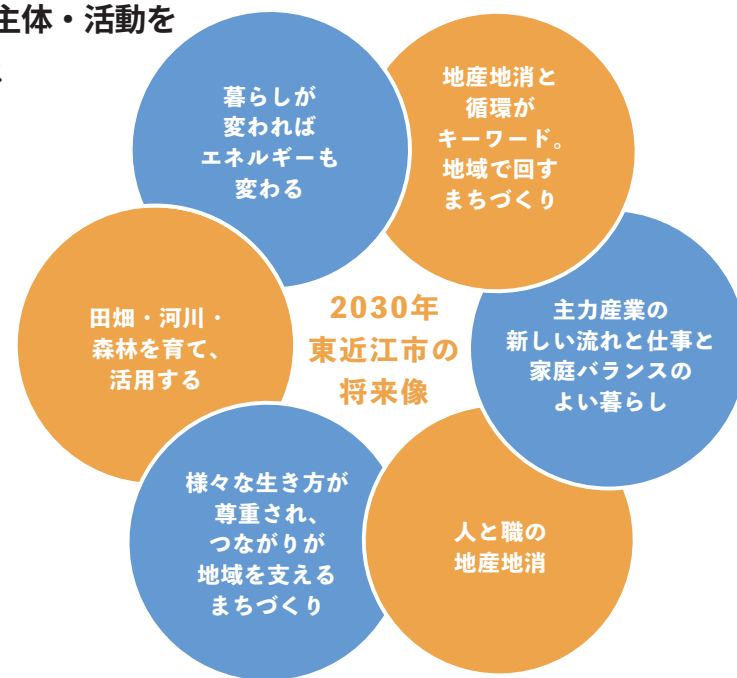
東近江三方よし基金は、
持続可能な東近江エリアの
実現へ向けた市民活動を支援する
コミュニティ財団です。

PURPOSE

地域資源を活かした地域課題解決を目指す主体・活動を
市民が支える仕組みを構築することを通じ
循環共生型の社会づくりに資すること

公益財団法人東近江三方よし基金は、持続可能な東近江エリアを実現していくために、必要な資金の調達や伴走支援等を担っていく目的で設立されました。

支援対象の指標としているのは、2009年2月から2011年3月にかけて開催された「ひがしおうみ環境円卓会議」で描かれた「2030年東近江市の将来像」です。東近江市の特色ある自然資本・人工資本・人的資本・社会関係資本といった地域資源を活かしながら地域の課題解決を目指す主体・活動に対し、市民が支える仕組みづくりを通じて「未来資本」を創出し、東近江市地域の活性化および循環共生型の社会づくりに資することを目的としています。

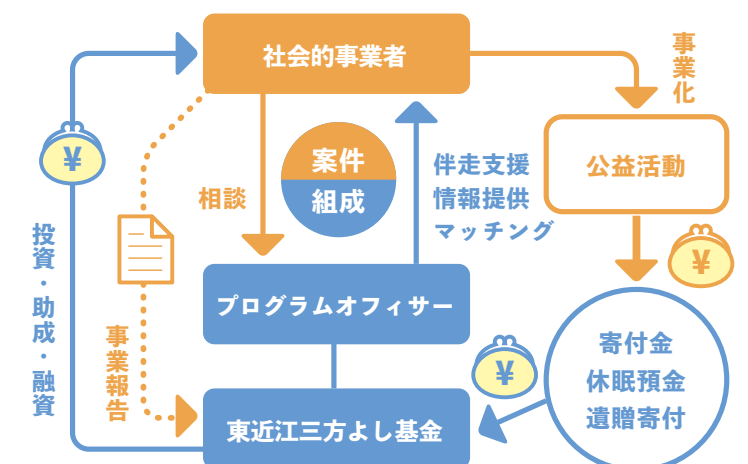


ACTIVITY

地域資源を活用した地域課題解決および
地域活性化を推進するための
コミュニティビジネスを支援しています

東近江市には、空き店舗のリノベーション、森林資源を活用した商品開発、働きづらさを抱える若者の就労支援など、地域の課題に気づき、行動し始めている人たちが多くいます。

市民がチャレンジしやすくなり、新たな地域課題に気づき行動する人が増え、自分たちのまちがより住みやすくなるよう、東近江三方よし基金では地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネスを支援しています。この取り組みにより、「温かいお金」が地域内で循環する仕組みづくりにも力を入れています。



東近江の森と人をつなぐ あかね基金フォーラム 2023

2019年にスタートした「東近江の森と人をつなぐあかね基金」は、森と人の豊かな関係性が100年後も継続することを目指して、多くの方々の寄付を財源に様々な民間活動を支援してきました。

5年目を迎える2023年、これまでの成果とこれからのあり方について考えるフォーラムを開催しました。

日時：2023年5月20日 場所：五個荘コミュニティセンター 大会議室

PROGRAM

第一部 あかね基金について

これまでの成果報告では、「東近江の森と人をつなぐあかね基金」の助成金を活用した活動について、5団体の皆さまにご報告いただきました。

① あかね基金のねらい 山崎理事・選考委員

② これまでの成果報告

- 1: 森と木：東近江市あらゆる場面で木を使う推進協議会
- 2: 森と生物多様性：東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト協議会
- 3: 森と子ども：東近江さとやま Nannies
- 4: 森と若者支援：一般社団法人 Team Norishiro
- 5: 森とエコツアー：その他団体紹介



第二部 あかね基金のこれからについて ～ パネルディスカッション ～



パネルディスカッションでは、各分野で活躍する専門家や実践者が、東近江市の「100年の森づくりビジョン」を中心に、森と人をつなぐ活動の現状や課題、そして未来に向けた展望について議論が交わされました。それぞれの立場から具体的な取り組みや提案が共有され、持続可能な地域づくりに向けた新たな視点や可能性が浮き彫りとなりました。

HIGHLIGHT

森と人のつながりを大切にする 活動への期待

コーディネーター

山崎 亨 氏（東近江三方よし基金理事）

02

パネリスト
山本 俊一 氏
（東近江市 林業振興課）

「地域住民が参加する『集落会議』を通じて、各地域で森づくりの方針を決め、適切な管理を進めています。これにより、人と森をつなぐ活動をさらに広げたいと考えています。」

04

パネリスト
遠藤 恵子 氏
（あかね基金助成事業 選考委員）

「あかね基金の寄付は、単なる資金提供ではなく、寄付者の共感や社会参加が地域の未来を支えるものです。こうした活動が森と人とのつながりを深めると確信しています。」

01

パネリスト
土屋 俊幸 氏
（日本自然保護協会 専務理事）

「東近江市の『100年の森づくりビジョン』は、市レベルでは極めて質の高い取り組みだと思います。これを継続し、地域での活動を全国の森林政策につなげることが重要です。その支援に尽力したいと考えています。」

03

パネリスト
水野 敏明 氏
（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 専門研究員）

「鈴鹿山脈の豊かな自然は、地域の森林整備の成果です。この取り組みは気候変動対策や生物多様性保全のモデルになり得ると期待しています。」

05

パネリスト
園田 由未子 氏
（NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部 事務局長）

「森は農業や地域の暮らしに欠かせない存在です。私たちが進める拠点『だれんち』では、森と人、そして地域のつながりを次世代に継承することを目指しています。」

公益活動助成事業

2023年度、当基金が支援する分野に対して助成事業を実施しました。当基金は、助成対象の公益活動の内容や主旨に沿って、ヒアリング・伴走しながら、活動にあった助成を提案し、申請いただいています。

2023年度は、東近江の森と人をつなぐ あかね基金助成事業・子ども・若者の支援に関する活動助成金・東近江市版 SIB・休眠預金活用事業（2021年度からの継続）を実施しました。

1 東近江の森と人をつなぐ あかね基金助成事業

東近江三方よし基金は、森林の保全や資源の活用、山村文化の継承などを実現するためにいただいた寄付をきっかけに、2018年に「東近江の森と人をつなぐあかね基金」を創設。あかね基金の趣旨に賛同いただいた企業・団体の皆さまのご寄付・個人、東近江市が実施したふるさと納税からの拠出金により助成事業を実施しています。

＜2022年度寄付活用公募分＞

2022年度寄付活用公募事業については、下記の通り2団体を採択し助成金の8割を支援しました。

- 公募期間：2023年2月25日～2023年4月15日 ●選考会：2023年4月21日
- 対象団体：①東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト協議会 東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト
②雪野山の森・里山クラブ・「あるく」から広がる里山・山村・奥山プロジェクト

2 子ども・若者の支援に関する活動助成金

「分野指定寄付プログラム[※]」の「子ども・若者を支える」への寄付を活用し、助成事業を実施しました。6団体を採択し、成果目標の設定等の伴走支援を行いました。

※東近江三方よし基金では、関心のあるテーマを選んで寄付していただける「分野指定寄付プログラム」を実施しています。

- 公募期間：2023年8月10日～2023年11月1日 ●選考会：2023年12月22日
- 対象団体：①日本語学習会なかよし「日本語学習会なかよし」
②おてんとさん「障がい児・者親子のための子ども食堂」
③東近江子どもサポーターズネットワーク 三々五々「子どもに関する活動」をサポートし合う横並びのネットワーク構築」
④共同助産所 お産子の家「経済的理由で産後ケア利用困難者へのサービス提供及び寄り添い」
⑤えん to えん「活動者同士のつながりとノリシロが広がる場づくり」
⑥こどもの居場所 ひがえど「異文化交流ができるこども食堂をつくる」
- 事業期間：2024年から、最長2年

＜テーマ＞

「暮らしを支える」「地域の食と農を支える」「森里川湖のつながり保全・活用」
「子ども若者を支える」「生業・起業ものづくりを支える」
「再生可能エネルギーを支える」「基金を支える」

支援総額：1,200,000円

社会的インパクト投資 促進事業

1 東近江市版SIB事業

当基金と東近江市、プラスソーシャルインベストメント株式会社の三者協定に基づき、社会的投資と行政補助金（コミュニティビジネススタートアップ支援事業）の改革を組み合わせた東近江市版 SIBを実施しました。

ソーシャルインパクトボンド（SIB）とは、社会的インパクト投資の仕組みの一つで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会問題の解決を目指す成果志向の取組です。

地域課題をビジネスの手法で解決する取組として2団体を採択し、東近江市版 SIBにより事業実施した結果、成果目標を達成したと認め出資者に償還しました。

- 選考会：2023年7月20日 ●評価委員会：2024年3月15日
- 出資募集額：500,000円 × 2団体 = 1,000,000円

実行団体 1 ぱれっとしが

＜テーマ＞

ひとりぼっちにしない子育て環境をみんなでつくりたい

ぱれっとしがは、「ひとりぼっちで子育てをするママをなくしたい」という想いのもと、「ママパスポート東近江・日野版」を制作・発行し、地域密着型子育て情報の発信、居場所づくり、イベントの開催を行っています。本プロジェクトは、前述の活動に加え、子育て世代の雇用づくり、次世代に活動をつなぐための体制づくりを行います。ニーズ調査、営業先リストを整理し、ビジネスとして育てます。社会との繋がりが減少・孤立してしまう子育て世代に対して情報提供やつながり創出、ニーズにあった支援を行い、安心して子育てができる地域をめざします。



実行団体 2 学び舎 木火土金水

＜テーマ＞

「見る・話す・食べる」五感で世界とつながろう

生きていく上で大切な資源（木火土金水）を知り深める「学び舎 木火土金水」が、2023年4月に立ち上がりました。その母体は、滋賀県東近江市五個荘の日本料理店「湖香 六根」。健やかな食事を支える資源が、環境汚染などにより失われ始めている現代に、「問題を知るきっかけづくり」から解決に挑みます。本プロジェクトでは、「現実起こっていること」を描き「なぜ」を問う力を身につけるドキュメンタリー映画上映会 & 感想交換会と、上映映画に関連したお食事会やWSを開催し、世界と地域を比較し、足元の大切なモノ・コトについて考えるきっかけを提供します。



休眠預金活用事業 報告会

2023年7月、休眠預金を活用した2020年度通常枠・草の根活動支援の成果を共有するため、東近江市と東京と二箇所での報告会を実施しました。

東近江市

2023年7月24日(月) に東近江市のあいとうエコプラザ菜の花館にて「休眠預金活用事業・2020 年度通常枠・草の根活動支援事業・全国ブロック「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」事業の成果報告会を行いました。

東近江市内の3団体からの事業報告のハイライト

空き家を活用して命を守りつなぐ場づくり

一般社団法人 TeamNorishiroの野々村光子さんは、「空き家を活用して命を守りつなぐ場づくり」について報告しました。彼女たちは「働く」ことを応援しており、「働く」ことはいろんな人のセーフティーネットになると考え、今回の事業を実施しました。お互いが気にかける人たちが集まる場所ができたことが今回の一つの成果だと話しました。



総働で地域につなぐ移住者支援拠点づくり

NPO法人愛のまちエコ倶楽部の園田由未子さんは、「総働で地域につなぐ移住者支援拠点づくり」について報告しました。これまで移住者支援をするなかで、地域と移住者をつなぐゆるやかな場所が必要だと感じ、「だれんち？」という場を作り、移住者と地域とをつなげる活動を展開しました。様々な企画を実施するなかで、圧倒的に地域の人と関わる数や機会が増えたと話しました。



みんなで走らす湖東のバス企画

一般社団法人湖東まちづくりの板倉元さんは、「みんなで走らす湖東のバス企画」について報告しました。湖東地域における地域交通の問題を解決するため、地元で解決する取り組みを試みました。様々な葛藤や試行錯誤を経て、バスを活用した地域の課題解決に取り組んでいます。



意見交換(パネルディスカッション) 「地域総働ってどうしたらできる？」

意見交換が行われ、パネラーとして野々村さん、園田さん、板倉さん、西村が登壇しました。「地域総働ってどうしたらできる？」という切実な問いに対し、パネラーからは具体的な取り組みとその結果、そしてこれからの展望について熱い議論が交わされました。



東京

2023年7月10日に、休眠預金活用事業 2020年度通常枠 草の根活動支援事業 全国ブロック「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」事業の成果報告会を開催しました。

「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」事業は、東近江三方よし基金、雲南コミュニティ財団、南砺幸せ未来基金のコンソーシアムによる2020年度から2023年度の休眠預金活用事業で、それぞれの地域の実行団体の活動報告を行いました。また、成果報告会では、プログラムオフィサーの役割や地域創造体制の構築について議論が行われ、休眠預金活用事業の意義と今後の展望が語られました。

PROGRAM

① 11団体の事業報告

- 東近江市の実行団体:「一般社団法人 Team Norishiro」「NPO法人愛のまちエコ倶楽部」「一般社団法人湖東まちづくり」
- 雲南市の実行団体:「産前産後ケアハグ」「一般社団法人みかた麴社」「うなん多文化共生まちづくり協議会」「3C「夢」Club実行委員会」
- 南砺市の実行団体の活動報告:「なんとおせっ会 移住応援団」「テラまちコネクト」「社会福祉法人マーシ園」「株式会社ガラバゴス」

② 事業実施によって明らかになった事象や気付きに関する報告

③ パネルディスカッション「市域におけるコミュニティ財団と休眠預金活用」

パネルディスカッション

「市域におけるコミュニティ財団と休眠預金活用」をテーマにパネルディスカッションを行いました。事業の特徴や成果、今後の課題について議論されました。また、休眠預金活用事業の意義や、地域コミュニティ財団の役割、社会的インパクトの評価方法などについて意見交換が行われました。



パネラー

- 一般社団法人場所文化フォーラム名誉総裁 吉澤保幸 氏
- 公益財団法人 社会変革推進財団常務理事 工藤七子 氏
- 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 堀田聡子 氏

コーディネーター

- 公益財団法人東近江三方よし基金常務理事 山口美知子 氏

HIGHLIGHT 休眠預金活用した各地域での活動について

堀田 聡子 氏

まちの課題が可視化されると、それに関わる人や団体がつながるのが面白いですね。そうやって活動を続けていく中で、団体同士や助けを求める人たちが「外国人移住者」とか「引きこもり」といったラベルを超えて、人と人として出会うのが印象的です。行政の事業だと対象が限定されてしまいがちで、そこから広がりが生まれることは少ないですね。でも実際には、困っている人に対して「この人を放っておけない」とか「何かできることはないか」という、人間的な応答が自然に生まれることが大事なんだと思います。そういう人と人のつながりが連鎖して、アクションが広がっていく。この流れは、制度の中の事業ではなかなか生まれにくいんじゃないかなと思います。

工藤 七子 氏

東近江三方よし基金の西村さんが言ってた「制度世界とごちゃ混ぜ世界」って言葉、すごくいいなと思って聞いていました。制度の中って生きづらさがあるんですよ。相談した瞬間にちょっと説教されてるみたいな感じになることもあるし、「支援の対象者は誰で、どう介入するか」という枠にとらわれない世界が必要だなと実感してます。それに、企業が社会課題に取り組むとき、「みんなのために」ってふわっとした方向に行きがちなんですよ。でも本当に自分たちは誰にどう向き合うのかを突き詰めて考えないと、ただの自己満足で「いいことしてる」って終わってしまう危険がある。そこには危機感を持っています。

吉澤 保幸 氏

国レベルで課題を考えると、どうしても抽象的で一般的な話になりがちなんですよね。例えば SDGsは学ぶ対象にはなるけど、実際の生活からどう変えていくかとなると難しい。でも、僕らはローカル SDGsという形で、生活者一人ひとりの具体的な課題を見つけて、それを解決することで、結果的にグローバルな課題にもつながるという考え方が大事だと思っています。だから国の話とローカルの取り組みをつなぐことが必要だし、ローカルにいる人間は主体的に動いていけばいいんだらうなと思っています。その意味で今回の休眠預金は、主体的な動きを後押ししてくれる力のある材料だと感じています。休眠預金は元々抽象的なお金だけど、地域に入れば種金となって活動を加速させ、見える化できる。つまり、地域の意思を反映させて「私たちはどう変えたいか？」を引き出し、動き出すきっかけを与える仕掛けだと捉えています。

休眠預金活用事業 2020年度通常枠
草の根活動支援事業 全国ブロック
「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」
事業 成果報告会

<https://www.youtube.com/watch?v=lZyBlYE6XMc>



支えてくださった企業・団体のみなさま

山崎動物病院 等

寄付累計(2024.3.31現在) **18,315,500円** ※不動産除く
(2023年度寄付額 3,060,664円)

株式会社IHI／株式会社農楽／株式会社イトーキ／有限会社A.SITE
株式会社二橋商店／湖東興産株式会社／株式会社山彦 ※掲載は敬称略です。

寄付型クラウドファンディング「GIVING for SDGs」へ参加し、インターネットから当基金へ
寄付出来る仕組みを構築し、東近江の森と人をつなぐあかね基金の寄付募集を実施した。

募集期間 2023年3月16日～5月16日 | 寄付金額 **1,550,000円** 個人27名 企業7社

この他にも、多くの皆様に支えられておりますこと、関係者一同心よりお礼申し上げます。

東近江三方よし基金では、企業・個人のみなさまからの 寄付をお受けしています

1 テーマを選んで寄付する

関心のあるテーマを選んで寄付していただける「分野指定寄付プログラム」を実施しています。
このご寄付はそれぞれの項目に沿って、事業がうまれたときにまとめて使わせていただきます。

暮らしを支える／地域の食と農を支える／森里川湖のつながり・保全
子ども・若者を支える／生業・起業・ものづくりを支える
再生可能エネルギーを支える／基金を支える

2 寄付で冠基金を設置する

寄付者の意向を反映させたオリジナルの助成金プログラムを作ることができます。
また、「冠基金」としてご寄付いただいた場合、その使い方について提案したりご相談もお受けしています。

3 事業を選んで寄付する

寄付を必要とする事業が発生した際に、その事業に対して寄付をいただくプログラムです。

4 東近江版 SIB事業に投資する

東近江市版 SIB事業は、国や市の行政、公益財団法人東近江三方よし基金、湖東信用金庫及びプラスソーシャル
インベストメント株式会社の協定のもと、地域課題の解決にむけて、社会的投資と行政補助金改革を組合
せた事業を実施するものです。

東近江市版 SIB事業に関する情報はエントライ HP(en-try.jp) をご覧ください。

寄付をお考えの方は、東近江三方よし基金 HPをご確認ください。

3poyoshi.com/page-donation



MESSAGE

東近江三方よし基金を
応援してくださっている方々から

応援メッセージをいただきました！

お産と子育てを支える会 齊藤 智孝さん（共同助産所 お産子の家）

私たちは助産所の立ち上げ時から三方よし基金の支援
を受け、多くの方とつながる機会を得ました。

特に伴走支援がなければ、助成金の申請すら難しく、
活動を広げることはできなかったでしょう。

資金調達や事業計画の策定を学び、地域に根差した活
動を継続できています。おかげで母子支援の輪が広がり、
助産師の育成も進みました。

こうした支援や助成を受けられる団体が東近江にもつ
と増えれば、より多くの方が地域の課題解決に取り組め
るはずです。

三方よし基金の皆様、これからも共に歩み、支え合い
ながら、より良い社会を築いていきましょう。心からの
感謝と応援を込めて。

東近江トレイル 田島 宏さん（東近江トレイル実行委員会 事務局）

東近江トレイルは、織山と箕作山の稜線を歩くコース
です。途中には古墳群、日本五大山城の観音寺城跡、聖
徳太子ゆかりの観音正寺、瓦屋禅寺、太郎坊宮が点在し
ます。稜線上からは鈴鹿山系、比良山系、伊吹山、びわ
湖が一望できる絶景ポイントに恵まれています。豊かな
自然環境や歴史文化財の魅力を滋賀県内外の来訪者に伝
え、その保全につなげていくため、里山整備団体や五個荘

地区まちづくり協議会が東近江トレイル実行委員会を、
平成30年12月に設立しました。登山道の整備や道標の
設置、案内地図の制作のため三方よし基金のあかね基金
を活用させていただき、トレイルツアーの開催や2年前
からは SEA TO SUMMITのハイクコースにも選定されまし
た。東近江市発展のため三方よし基金の重要性はますます
高まると思います。

Team Norishiro 野々村 光子さん（一般社団法人 Team Norishiro）

「うちの長男、もう10年ぐらい家に居てるんやわ」
「お風呂で体ってどう洗うの？」
「誰かと一緒にご飯食べたん、18才の入所施設卒業以来やわ」
「誰かうちの山の木、運び出してくれんかな？」

本当に小さい声を聞く私たちの毎日。一斉に降って来
る制度でこの小さい声は包めない。

聞いた責任とは...右手を出して握ってもらうまでの時
間に思いを馳せながら地域へ発信する。

見える成果は小さい。見える時間も小さい。

そんな小さく大事な私たちの毎日を見つけ、許し、応
援してくれる。

それが私たちの知ってる三方よし基金。

だからこそ、地味は継続できて、右手を握ってくれる
彼らも増えて行く。

応援は一方通行ではなく循環し広がっていくものと基
金の応援を通して教わった。

応援をされる私たちがもっと小さく消えそうな声を消
さずに届ける責任も貰えた。地味に共に。

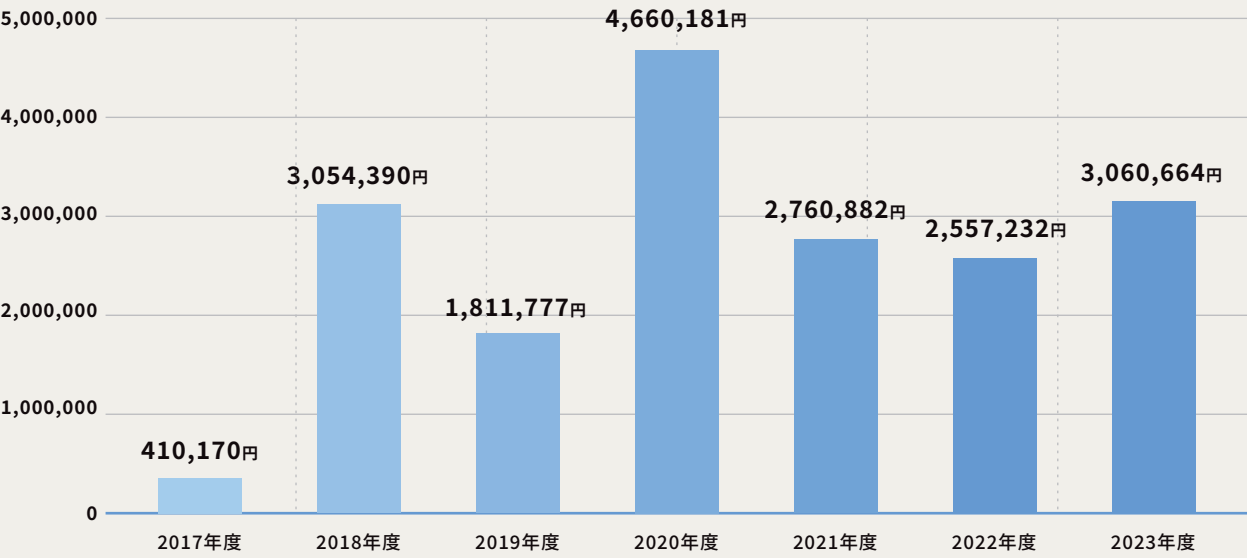
2023年度 決算報告

正味財産増減計算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで (単位: 円)

		科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部	1 経常増減の部	1 経常収益	29,888,100	79,498,819	-49,610,719
		基本財産運用益	6	60	-54
		受取寄付金	2,446,127	2,561,934	-115,807
		受取補助金等	17,555,281	70,036,840	-52,481,559
		事業収益	9,886,250	6,899,544	2,986,706
		雑収益	436	441	-5
		2 経常費用	25,946,110	84,502,067	-58,555,957
	2 経常外増減の部	事業費	25,713,225	84,323,353	-58,610,128
		管理費	232,885	178,714	54,171
		当期経常増減額	3,941,990	-5,003,248	8,945,238
		1 経常外収益	0	0	0
	2 経常外費用	2 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		当期一般正味財産増減額	3,941,990	-5,003,248	8,945,238
		一般正味財産期首残高	5,740,117	10,743,365	-5,003,248
		一般正味財産期末残高	9,682,107	5,740,117	3,941,990
II 指定正味財産増減の部		受取補助金等	31,911,950	30,650,000	1,261,950
		受取寄付金	2,922,838	2,443,398	479,440
		一般正味財産への振替額	-33,841,800	-72,598,774	38,756,974
		指定正味財産期首残高	16,522,157	56,027,533	-39,505,376
		指定正味財産期末残高	17,515,145	16,522,157	992,988
		III 正味財産期末残高	27,197,252	22,262,274	4,934,978

寄付総額の推移

寄付総額(2024年3月31日 現在)※不動産除く 18,315,500円 (単位: 円)



貸借対照表

2024年3月31日 現在 (単位: 円)

資産の部		負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金預金	5,656,067	未払金	5,034,982
未収金	4,584,000	預り金	148,015
流動資産合計	10,240,067	未払消費税等	337,400
2 固定資産		流動負債合計	5,520,397
基本財産合計	3,001,000	負債合計	5,520,397
特定資産合計	11,761,611	正味財産の部	
その他固定資産合計	7,714,971	1 指定正味財産	17,515,145
固定資産合計	22,477,582	2 一般正味財産	9,682,107
資産合計	32,717,649	正味財産合計	27,197,252
		負債及び正味財産合計	32,717,649